

2025年（10月入学）

2026年（4月入学）

佐賀大学大学院入学試験問題

地域デザイン研究科

マネジメントコース

科目名： 都市経済学

解答上の注意事項

- 1 「解答始め」の合図があるまで問題を見てはならない。
- 2 「解答始め」の合図があったら、全ての解答紙の所定欄に受験番号を記入すること。
- 3 問題の解答は、別に指示がある場合を除き、所定の解答欄に記入すること。
- 4 「下書き用紙」がある場合は、「解答紙」とともに「下書き用紙」も回収する。ただし、「下書き用紙」に記入した内容は採点の対象とはしない。
- 5 その他、監督者の指示に従うこと。

地域デザイン研究科 試験問題

問題 1～3の全てに解答しなさい。

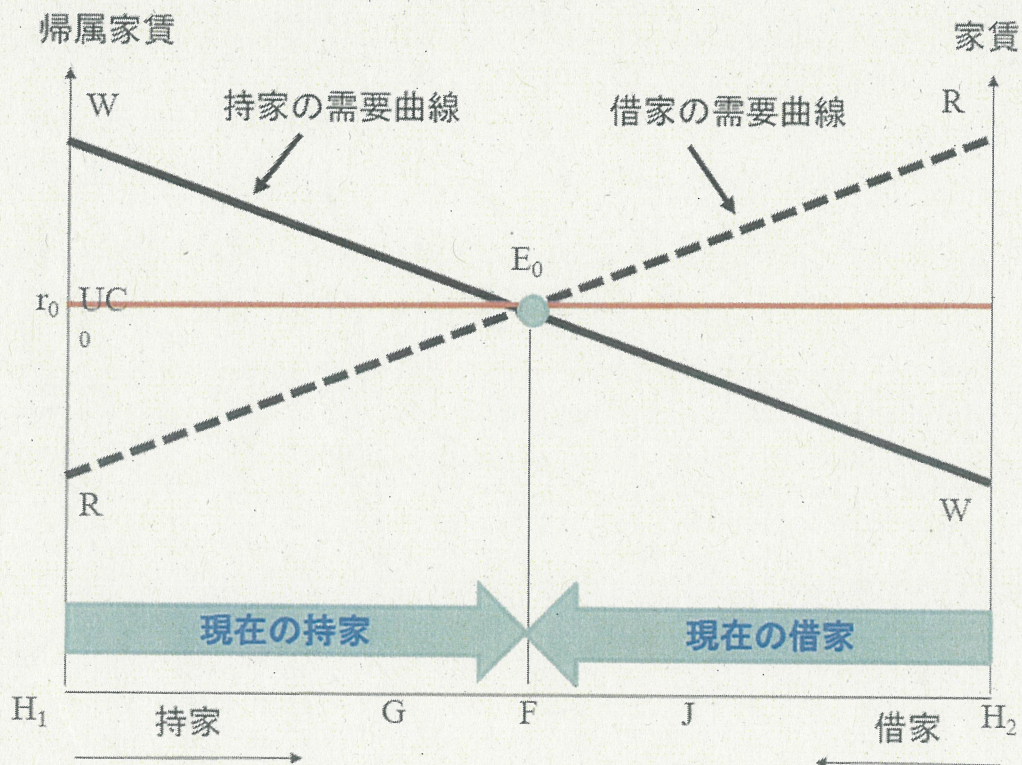
問題 1 マクロ金融政策と都市の拡大

図は、ある時点における「持家」と「借家」に対する需要（支払い意思額）に基づく均衡分析の結果を示している。この図では、現在の均衡価格 r_0 は、ストックである住宅を維持していくために必要な費用であるユーザーコスト UC_0 と同じ値になっている。なお、均衡価格は、「持家」では帰属家賃を意味し、「借家」では家賃を意味する。

$$\text{ユーザーコスト} = \text{利子費用} + \text{償却費用} - \text{キャピタルゲイン} + \text{税金}$$

日本政府は、現在の均衡価格からユーザーコストを乖離させることで、住宅の需要を高めて経済を活性化したいと考えている。そのためには、財政政策か金融政策の一方、あるいは、両方をどうしたら良いかを簡単に述べた上で、作図によって、新しい均衡点における価格と個数を示しなさい。

(解答用紙に、問題 1 と明記の上、解答しなさい)



問題 2 計算問題

政府が公共住宅など公共財 X を供給している。その総費用曲線は $C(X) = \frac{2}{3}X^3 + 5X + 500$ である。公共財の供給から代表的個人 1 が受ける純便益曲線は $B_1(X_1) = -3X_1^2 + 5X_1 + 100$ 、代表的個人 2 が受ける純便益曲線は $B_2(X_2) = -\frac{5}{2}X_2^2 + 10X_2 + 300$ である。この時、社会的に最適となる公共財 X の供給量を求めなさい。

必要に応じて、解の公式 ($X = \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}$) を使うこと。

(解答用紙に、問題 2 と明記の上、解答しなさい)

問題 3 都市発展と外部効果

従来、都市経済学や空間経済学では、生産活動の空間的集中が集積の経済(外部経済)を機能させ、都市レベルの収穫増の発生によって都市発展が成り立つことが知られている。都市発展は外延的な土地利用を伴うため、鉄道や道路の延伸といった交通の役割が重要になる。都市発展と交通開発は不可分の関係にある。

2000 年の「IT 革命」では、情報通信技術 (ICT : information and communication technology) の急速な発展のもと、ICT を利用したビジネスが普及した。ICT の発展に基づく情報通信費の低減は、人々の移動をなくし、どこからでも情報にアクセスできるユビキタス社会の到来を期待させた。しかし、通信が輸送(移動)にとってかわることはなく、ICT の発展は、輸送費の低減と連動し、大都市の地価を上昇させながら一極集中をさらに強めた。

2020 年の新型コロナウイルス感染症に起因したパンデミックは、都市封鎖(ロックダウン)や国境封鎖による国内外での移動制限を発生させた。移動制限は、オンライン会議ツールを急速に普及させ、テレワーク(在宅勤務)の実効性を高めた。しかし、2023 年 5 月に、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが 5 類に移行した結果、“出社回帰”の動きが高まっている。

ここまでの説明を踏まえて、大都市と地方都市を区別した上で、「face to face communication」という単語を使いながら、都市発展と交通開発の展望を簡潔に述べなさい。

(解答用紙に、問題 3 と明記の上、解答しなさい)